

# 神奈川県福祉作文コンクール 入選作品集



神奈川県福祉作文コンクール入選作品集

令和4年度版

社会福祉法人 神奈川県共同募金会  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

## まえがき

福祉作文コンクールは、昭和52年から始まり、今年で45回目となりました。次代を担う子どもたちに「たすけあい」や「思いやり」の心が芽生え、だれでもが「ともに生きる」社会が実現することを願って実施してまいりました。

今年、県内の小・中学校合わせて177校から5,611編の応募がありました。児童・生徒数が年々減少していく中で毎年多くの方に参加いただいています。

応募作品は小・中学生別に、県内市区町村ごとの地区審査会および県最終審査会を行い、このたび、最優秀賞16編、優秀賞20編、準優秀賞20編の計56編の入選作が決定いたしました。

本作品集は、入選作品の中から、最優秀賞16編を掲載したものです。どの作品も、体験や経験を通じて感じたこと、考えたことなどが自分自身の言葉で丁寧に書かれています。広く県民皆さまの目に留まり、お互いを思いやり、たすけあい、支え合えるような優しい気持ち

が社会全体に広がっていくことを願っています。

本来ならば、すべての入選作品をご紹介したいところですが、誌面の関係で、優秀賞及び準優秀賞は作品の題名・学校名・氏名を掲載させていただきましたので、ご了承ください。

なお、作品は、児童、生徒の気持ちを尊重し、原則として原文どおりに掲載しておりますこと申し添えます。

結びにあたり、コンクールに参加した小・中学生の皆さん、指導にあられた先生方、ご家族の皆さま、ご多忙のなか審査をお願いしました委員の方々に、心よりお礼申しあげます。

また、ご協力くださいました神奈川県、神奈川県教育委員会、各市町村教育委員会、日本放送協会横浜放送局、(株)テレビ神奈川、(株)神奈川新聞社、(公財)日揮社会福祉財団の皆さまに深く感謝申しあげます。

令和4年12月

社会福祉法人神奈川県共同募金会  
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

審査にあられた方々

|                                       |       |
|---------------------------------------|-------|
| 日本放送協会横浜放送局<br>コンテンツセンター長             | 佐々木 真 |
| 株式会社テレビ神奈川<br>営業局営業推進室長兼営業推進部長兼事業推進部長 | 福原直樹  |
| 株式会社神奈川新聞社<br>クロスメディア営業局次長兼出版メディア部部长  | 土岐邦彦  |
| 公益財団法人日揮社会福祉財団<br>常務理事兼事務局長           | 佐藤恭平  |
| 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部<br>地域福祉課長            | 河田貴子  |
| 神奈川県立総合教育センター<br>教育人材育成課主幹兼指導主事       | 森坂剛将  |
| 社会福祉法人神奈川県共同募金会<br>常務理事               | 中島孝夫  |
| 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会<br>常務理事             | 井出康夫  |

(順不同/敬称略)

# 第45回神奈川県福祉作文コンクール入選作品集 目次

## 小学生の部

### 最優秀賞

|                |                 |    |            |    |
|----------------|-----------------|----|------------|----|
| 神奈川県知事賞        | 平塚市立大原小学校       | 四年 | 大和 慶剛…………… | 1  |
| 多くの病気と車いす生活    |                 |    |            |    |
| 神奈川県教育長賞       | 相模原市立藤野小学校(緑区)  | 四年 | 小嶋 栞央…………… | 3  |
| 思いやり           |                 |    |            |    |
| 日本放送協会横浜放送局長賞  | 横浜市立潮田小学校(鶴見区)  | 四年 | 狩俣 宝良…………… | 5  |
| お手伝い           |                 |    |            |    |
| t v k 賞        | 横須賀市立武山小学校      | 一年 | 角田 柊愛…………… | 7  |
| わたしのおじいちゃん     |                 |    |            |    |
| 神奈川県新聞社長賞      | 函嶺白百合学園小学校(箱根町) | 六年 | 高橋 麻帆…………… | 9  |
| もっと知ってほしい      |                 |    |            |    |
| ふれあい賞          | 横浜市立葛野小学校(泉区)   | 三年 | 北澤穂乃香…………… | 11 |
| わたしたちのことを      |                 |    |            |    |
| 神奈川県共同募金会会長賞   | 横浜市立葛野小学校(泉区)   | 六年 | 川上 開……………  | 13 |
| 想像力をはたらかせて     |                 |    |            |    |
| 神奈川県社会福祉協議会会長賞 | 聖セシリア小学校(大和市)   | 六年 | 秋谷 咲良…………… | 15 |
| ヘルプマークⅡ特別視許可証? |                 |    |            |    |

## 中学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

みんな同じ

秦野市立北中学校

一年 古谷 陸翔……………17

神奈川県教育長賞

知ることの大切さ

伊勢原市立伊勢原中学校

一年 辻本 耀清……………20

日本放送協会横浜放送局長賞

知るということ

平塚市立春日野中学校

三年 前田 乃裕……………23

t v k 賞

聞けた、最期の声

神奈川県立平塚中等教育学校

三年 石井 千波……………26

神奈川県新聞社長賞

共生社会に生きる

小田原市立城山中学校

三年 岡本 彩佳……………29

ふれあい賞

福祉の目線

大井町立湘光中学校

三年 橋本 有楽……………32

神奈川県共同募金会会長賞

今、自分にできること

厚木市立依知中学校

一年 竹原 梢……………35

神奈川県社会福祉協議会会長賞

高齢者の地域支援について

厚木市立依知中学校

二年 木下 永琥……………38

優秀賞・準優秀賞入選者名簿……………41

## 小学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

#### ぼくの病気と車いす生活

平塚市立大原小学校

四年 大和慶剛

ぼくは、ベルテス病です。この病気は、足の骨がうまく成長せずに一部が死んでしまうのです。子どもの間は治りようをすれば骨が生えてきます。そこでぼくは、治りようのために両足にそう具をつけ、病院に入院して車いすで生活をしました。

神奈川県立子ども医りようセンターには学校があります。病気でベッドの上から動けなくても、ベッドをい動させて教室に行くことができます。入院しながら学校に通うことができます。ぼくも入院してそう具で治りようしながら車いすで登校しました。そこでは全く不自由ではありませんでした。車いすでの学校生活は、自分で何もできないようなイメージでし

たが意外にも一人で出ることが多くありました。例えば、黒板消しは長いぼうがついていて高い所にもとどきました。本だなやロッカーは自分の手のとどく位置にありました。そして、学校のつくえはえん筆や消しゴムが落ちないように木のわくがはしについていました。そんな中で先生の助けもあり、不自由なく楽しい毎日をすごしました。

退院してから車いすで地元の小学校にもどると、不自由なことがたくさんありました。一番大変だったのが、エレベーターがないことです。でも、お母さんがぼくをだっこして階段をのぼってくれました。い動した先の教室にだん差があると先生がおしてくれました。えん筆を落としてしまうと、近くの友達が拾ってくれました。ぼくの目の前にあつた問題が色々な人の助けによってかい消していきました。

治りようが進んで、ぼくは車いすが必要なくなりました。このけい験を生かして、次はぼくが目の前に問題のある人に気付いて手を差し伸べたいと思います。

## 最優秀賞

神奈川県教育長賞

### 思いやり

相模原市立藤野小学校（緑区）

四年 小嶋 栗 央

わたしのお母さんは昔、病院で働いていました。その時、かん者さんの中には耳の聞こえない人がいたそうです。その人がしんさつに來ると、受つけや薬の説明など紙に文字を書いてやりとりをしていました。それを見て「もっとスムーズにできたら良いのに。」と思ったそうです。

お母さんは自分で手話ができたら、少しお手伝いができるかもしれないと思ったそうです。そして手話こう習会へ勉強をするために通いました。

少しずつ手話を覚えていく中で、耳の聞こえない人や目の見えない人達が、どんな事で苦ろうをしているのかにも気づかされたそうです。

お母さんが働いていた病院に、耳の聞こえない人がしんさつに來た時、お母さんが覚えた手話であいさつをしたらとてもよろこんでくれたそうです。

ちよっとだけしか関われなかつたけど、勉強して良かったとお母さんは話してくれました。わたしはこの話を聞いて、ちよっとした相手の思いやる気持ちがあれば、相手だけでなく自分自身も幸せな気持ちになれると思います。お母さんの手話にちよう戦する行動力もすごいなと思いました。わたしが同じ立場に立った時、わたしに同じ事ができるかどうか、考えるきっかけにもなりました。

わたしも手話にきよう味が出てきたので、耳の聞こえない人の手助けが少しでもできたらと思います、少しずつですが手話を勉強しています。

世界中のみんなが、自分の事ばかりでなく、ほんのちよっと相手を思いやるやさしさがあれば、戦争もなく平和でみんなが幸せになれるはずなのだと思います。

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### お手伝い

横浜市立潮田小学校（鶴見区）

四年 狩俣 宝良

ぼくは、スイミングに行く時やお母さんと買物に行く時などでバスや電車などの公共交通機関をよく使います。

スイミングの帰りにバスを待っていました。ぼくとお母さんの前に車イスのおばあさんと車イスに手をかけているおじいさんが並んでいました。ぼくは「どうすればいいのか、バスが来て乗る時に声をかければ良いかな、なんて声をかければ良いのかな。」と頭の中で考えていました。すぐ後ろにいるのだから「何かしなくては」と思っていました。

前にバスに乗っていた時のことです。途中から乗車して来た車イスの方がいました。その時は運転手さんがとても手ぎわ良く、固定されていたイスをロボットの手足をしまつて変形

させるように横にたたんでいどうさせていました。そして後ろのドアを開け、乗車しやすいように、歩道と同じ高さまでステップを下げて今度は運転手さんがおりて車イスを押し乗車してきました。さつきイスを窓側にいどうさせた場所に車イスのお客さんを案内してしました。もう終わりかなと思ったら今度は車イスとバスの床をベルトで固定しました。ぼくは初めてみたので最初は「何をしているんだろう。」と思いましたが、最後まで見えていて運転手さんが一人ですべてやっていたので大変そうでした。

何がぼくに出来るんだろう。今回もそう思いながらバスを待っていました。車イスのおばあさんとおじいさんの順番になりました。その時バスの運転手さんが中から「お手伝いすることはありますか？」と声が聞こえてきました。「大丈夫です。」と答えていました。

そうか、この一言がぼくには思いつかなかったのです。「お手伝い」これからはこの言葉を使って自分ができることをお手伝いしていけたら良いなと思っています。



## 最優秀賞

t v k 賞

### わたしのおじいちゃん

横須賀市立武山小学校

一年 角田 柊 愛

わたしがうまれるまえに、じいじがびょうきになりました。のうしゅつけつというあたまのびょうきで、みぎのとあしがほとんどごきません。ことばもよくしゃべれません。おじいさんは、こどものころに、じいじによくあそんでもらったそうです。

じいじはちかくにすんでいてよくあそびにいきます。ばあばがじいじのおせわをしています。からだやことばがおもったとおりにならないのでいらすすることもあるみたいです。ばあばもたいへんなことがいっぱいあります。じいじが、くらしやすいようにいろいろくふうしています。ばあばも、じぶんがたいへんにならないようにくふうしています。

たくさんのおひともたすけてもらいます。りはびりにいって、からだをうごかすれんしゅ

うやまつさーじをしています。じいじも、がんばっています。

いっしょにおせるをしたり、てをうごかしてあそびます。おんどくをきいてもらいます。

わたしが、しょくじのおてつだいをするといつも「ありがとう」といつてくれたりするの  
でうれしいです。

じいじは、えがじょうずだとみんないっています。ひだりでも、えをうまくかいてみせてくれます。かいたえは、かべにかざります。

しゃべれるようになるように、あそびにいったときは、たくさんおはなしをするようにしています。ばあばもたいへんなので、わたしができることはおてつだいで、みんなげんきに  
くらししていきたいです。

わたしのおとうさんとおかあさんは、かいごのおしごとをしているので、いろいろなこと  
をおしえてくれます。

おじいちゃんに、げんきになってながいきしてもらいたいとおもっています。

## 最優秀賞

神奈川新聞社長賞

もつと知ってほしい

函嶺白百合学園小学校（箱根町）

六年 高橋 麻帆

みなさんは「ヘルプマーク」を知っていますか？

ヘルプマークとは、見た目では分からない病気やけがをもっている方のための目印です。

私は、ヘルプマークの存在を知っていましたが、意味はあまり分かりませんでした。

今年の春に私の姉がヘルプマークをもらってきました。姉は見た目はとても元気な女の子だけれど、目には見えない病気をもっています。見えないからこそ、一人で外出する時に発作が起きてしまったら周りの方に助けてもらうために身に付けています。姉のヘルプマークにはこう書いてあります。

「私はパニック障害という病気です。過呼吸や泣いてうずくまったりしていたら静かな場所

で休ませてください。時間が経てば治まります。ご迷惑おかけしますがお願いします。」姉のように目に見えない病気の場合、発作が起きて初めて気付いてもらえます。

私は、ヘルプマークを知ってから感じることはありません。姉や母は病気のことです。学校の先生や病院の方とお話した時必ず最後に言う言葉があります。

「ご迷惑をおかけします。」

私はそうは思いません。なぜなら、困っている時に助けてもらうことは悪いことではないと思うからです。私も先生も助けることを迷惑なんて思いません。元気になってほしいと思うから助けています。

私は思います。ヘルプマークをみんながもつと知り、付けている方が迷惑なんて思わずに助けを求められて、笑顔で「ありがとう」とだけ伝えられる世の中にしたいなと感じます。

## 最優秀賞

ふれあい賞

### わたしたちのことを

横浜市立葛野小学校（泉区）

三年 北澤 穂乃香

私は、しょう動をがまんできないというしょうがいがあるようです。これからけんさするので、かく実とは言えませんが、そう思われています。でもそう思われるのがきらいです。きつとしょうがいのある人たちの中には、そう思っている人がたくさんいると思います。

『みんなとちがう。』それがいやなのです。

私はがまんできなくて、じゅぎょう中に、よくしゃべってしまいます。その事を母に何度も、「やっつては、いけないよ。」

と言われています。だから、やめようと一度は決心するのですが、どうしてもやめられません。時には自作の歌を歌うこともあります。

私は、母にがまんができないのは発たつしょうがいのかのうせいが高いから病院に行こうと言われました。自分でもそうだなと思いましたが、それがとてもいやで、

「ちがう！」

と、言いはりました。でも、私は今でもがまんできません。

ですが、そういう人を仲間外れにはしないでほしいのです。みんなと同じようにあつかってほしいのです。私のがまんできるように少しずつ努力しようと書いている今あらためて思いました。

私たちもたくさん努力します。だから、そういう人たちがきらいな人も、私たちを見ていい所もあるのかな、と思つてほしいです。

すきになってください。

みんなとちがうのもいいなと思つてください。

それがふくしの心だと思えます。

私たちが、みんなとちがう人たちのことをおうえんしてください。

私たちががんばります。だから、

「おねがいます」

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

### 想像力をはたらかせて

横浜市立葛野小学校（泉区）

六年 川上 開

僕はこの夏、毎日電車で塾に通っている。いつものようにホームに着くと駅員さんが立っているのに気づいた。そのとなりに車椅子に乗った人もいた。何かあるのかなと思えばらく見ていた。すると電車がやってきた。駅員さんは板の様なもので電車とホームをつないだ。そして、その上を車椅子の人が通り、電車に入って行った。僕はその様子をずっと見ていた。電車に乗った後も車椅子の人が気になった。降りる時はどうするのか？同じように駅員さんが手伝ってくれるのかな？そもそも、ホームまでどうやってきたのだろうか？と色々気になつた。

次の日、また同じように塾に向かった。駅に着き、ふと昨日のことを思い出した。車椅子の人、今日もいるかな？そういえばどうやってホームまで行ったんだろう？僕は車椅子に乗ったつもりでホームを目指すことにした。

まず改札口。いつも使っている改札口は幅がせまくて通れなさそうだ。広い改札口を通る。ホームに降りるにもエスカレーターは使えない。エレベーターを使う。他の人が待っていた。少し待ってエレベーターに乗った。ホームに着いた。いつもの電車はもう行ってしまった。次の電車を待って、少しあわてて塾に向かった。

車椅子での動きを想像しながら行動してみると、いつもより時間がかかった。改札口を通るにも、ホームに行くにも方法が一つしかないからだ。よく使う駅なのでエレベーターの場所はすぐに分かったが、知らない場所ではエレベーターをさがすのも苦労しそうだ。僕がまだ想像できていない問題もありそうだ。車椅子の人と話す機会があったら、僕の想像は正しいか聞いてみたい。だれもが生活しやすい街にするためには、いろいろな立場の人の動きを想像してみるの大切だと思った。

## 最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会会長賞

### ヘルプマークⅡ特別視許可証？

聖セシリア小学校（大和市）

六年 秋 谷 咲 良

私は、七月の通学中、ある人を何度か見かけていた。

この人を初めて見かけた時は、注意を払えず、「何か」がついている黒い杖を両手に持っているその人は、人と違って危なそうな歩き方をしているな、大丈夫かなと感じた。

次に見かけた時、その人をじっくり見てみると、その「何か」が十字架とハートが書かれた赤いカードだと気づいた。そこで、このカードは何の為の物か疑問に思い、自分で調べてみると、それがヘルプマークだと分かった。ヘルプマークは見かけでは分からない病気やけがを持つ人が皆に伝える為を持ち、病名や障害の名前、必要なサポート等が書かれている。次は、ヘルプマークをつけている人や他の障害者にも声をかけたり、歩くのを手伝ったりと

思いやりを持って接したいと思った。

しかし、三度目にその人を実際に見かけると、声をかける時は名前も言うべきか、禁止されている寄り道扱いになってしまうか分からず、声をかけられなかった。家に帰り、「私にも何か手伝うことができたのでは」と思い、障害者の人が書いた作文を読んだ。それには、「大丈夫ですか」という声かけだけで安心するとあった。声をかけない理由を考えるのではなく、まず声をかけていきたい。

一方、私はその人をじっくり見てしまったことに気づいた。注視するという行動が特別視に繋がり、それにその人が気づいて傷ついたかもしれないと、罪悪感を覚えた。ただ、ヘルプマークが「特別視しても良い」という許可証なのかもしれないとも思った。

そして、困っている人を助ける意思表示として使える、逆ヘルプマークを実用化する事で、障害がある人もない人も障害を一方的な特別視も無視もしない共生社会を実現したい。

## 中学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

#### みんな同じ

秦野市立北中学校

一年 古谷 陸翔

僕は、自分の病気をとおして、日々の生活の中での環境の不整備や障害のある人への偏見が多くあると感じています。

僕は、生まれつき皮膚の難病があります。皮膚が人より脆く、すぐに傷ができてしまい、毎日、痛みと痒みを我慢しなくてはなりません。身体がとても疲れやすく、思うように動くこともできません。感染症などにより入院し、治療を受けることもあります。また、傷を早く治すために、栄養をたくさんとらなくてはいいけません。毎日の栄養は、限られた食事と特別な栄養剤で補っています。栄養剤は、あまり美味しいものではありませんが、身体に必要な

な栄養の為、頑張つて飲んでいきます。成長するにつれて、歩くことが難しくなってきました。なので、移動の時は車椅子を使っています。

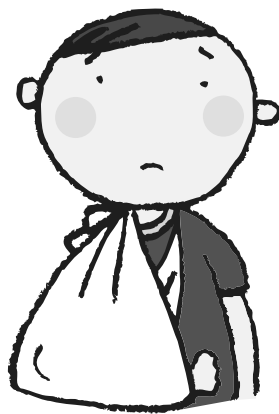
たくさん我慢しなくてはいけなくて、辛くなることがあります。そんな生活の中でも自分なりの楽しみもあります。それは、家族と日帰り旅行をしたり、ショッピングモールへ買い物に行くことです。車に乗って、色々な景色をはじめて行く場所などを見ると、ワクワクした気持ちになります。しかし、外出先で車椅子が通れない場所や段差が高い場所があつて諦めなくてはならないことがあります。エレベーターが満員で乗れずに、何度も見送つて待ちぼうけになることもあります。昔に比べたらバリアフリー化が進んで、整備されている所もありますが、車椅子に乗っている人にとってはまだまだ不便に感じます。

一番辛いと思うことは、人の視線です。僕と出会った人やすれ違った人の多くが、僕の姿を見て真顔になったり動きを止めます。ジロジロと見られて変なものを見るような冷たい視線は辛いです。視線の他にも、「何あの皮膚、ママ見てあれ」など、心ない言葉に傷つくこともあります。かわいそうと言われた時には、僕はかわいそうなのか？と疑問に思ったこともあります。そういつた出来事は、今でも僕の心の中に残っています。ある時には、病気のことは分からなくても優しく声をかけてくれる人もいます。見た目が少し違うだけで、なぜこんなにも人からジロジロ見られたり、言われたりしなければならぬのだろうと感じます。海外の場所によっては、障害のある人もない人も同じように生活していると聞いたことがあります。そこに比べると、日本はまだまだバリアフリー化ができていないところや見た目な

どの偏見が多くあるのだと感じました。

僕が病気をとおして感じたことは、一人ひとりが、相手を思いやる気持ちや相手の立場になつて考えることで、健常者と障害者ではなく、みんなが同じ「人」として偏見がなく、共に助け合う事ができるような社会になるのではないかと思います。

この先、また悲しい気持ちになることがあるかもしれないかもしれません。それでもやってみたくさんあるので、塞ぎこまず、どんどん外へ出ていきたいと思っています。そして、辛いことを忘れるくらい楽しい思い出を作っていきたいと思います。



## 最優秀賞

神奈川県教育長賞

### 知ることの大切さ

伊勢原市立伊勢原中学校

一年 辻 本 耀 清

僕の祖父のかばんには、いつも同じカードタイプのキーホルダーが付いている。スイスの国旗に似ていてハートのマークまで付いている。赤色であまりにも目立つので一緒にいる時は気恥ずかしくて祖父には内緒で見えない様に隠した事もある。ずっとただの飾りだと思っていたから、ある時に同じ物を付けている人を見かけた時、僕は驚いた。正直、小学生だった僕は「よくあんな派手なキーホルダーを付けれるな。」と思っていた。中学生になり部活で電車に乗る事が増えた。そうすると祖父と同じあの赤いキーホルダーを付けている人が多くいる事に気付いた。不思議に思い、その事を祖父に伝えた。そうすると祖父はパンフレットを見せながら説明してくれた。あの赤いキーホルダーには「ヘルプマーク」という名前が付

いていた。義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病の人、妊娠初期の人など援助や配慮を必要としている人が持つっていると教わった。

僕が小学三年生の時に祖父は心臓の手術をした。医師は小学生の僕にもわかる様に優しく説明してくれた。心臓弁膜症とそれによる合併症だった。その病気がどれだけ危険なものなのか、その手術がどのくらい大変なものなのかも丁寧に教えてくれた。その時は祖父が死んでしまうのではないかと不安になり僕は泣いた。そんな僕に医師は「先生は手術を頑張る。おじいちゃんは生きる事を頑張る。だから君は退院した後のサポートを頑張ってほしい。」と言ってくれた。手術から退院までは一ヶ月くらいで思っていたよりも早かった様に思う。ただ退院してきた時の衝撃は今でも忘れられない。僕にとっては熊の様に大きかった祖父が痩せてガリガリになっていた。いつも僕が泣きべそをかくまでキャッチボールをさせてきた熱血な祖父が歩くのもやっとな状態だった。その姿を見た僕は悲しくて、しばらく祖父の目を見て話ができなかった。

僕と祖父はリハビリだと言っては一緒に散歩をした。医師に言われた様に僕はサポートしただった。あれから四年が経ち今でも行動は周りに比べたら遅いけれど、病気の事を時々忘れてしまうくらい元気になってくれた。ヘルプマークの意味を知った時、内部障害という言葉葉を初めて知った。確か、祖父が目に見えて弱っていた時には周りの人もとても優しくなかった。しかし元気になり自由に出かけられる様になった時、祖父と世間の動けるスピードの違いは大きく、祖父が迷惑かけまいと慌てる姿を何度も見た。もたつく祖父にイライラした態度の

人もいた。小学生だった僕は「おじいちゃんは病気なんだから仕方がないじゃないか」と頭に来ていた。しかし今思うと世間の人は祖父が病気だと知るはずもない。そこで僕はヘルプマークの持つ意味の大切さに、やっと気が付いた。それと同時に、家族の僕でさえ、ずっとヘルプマークの意味を知らなかった事がショックだった。もっとたくさんの人にヘルプマークを知ってほしい。駅や商業施設にポスターを貼り、学校の道徳などでもやってほしいと思った。祖父の様な病気だけではなく、難病や妊娠初期、精神障害の人も見ただ目では分からない。だからこそ、付けているヘルプマーク。でもそのヘルプマークの意味をみんなが知らなくては意味がない。

福祉はまず知る事から始まると僕は思う。誰だって病気、障害、高齢者などが家族や身近にいなければ知る機会がなかなかない。でもその意味と存在を知る事ができれば意識が変わると思う。あの赤くて派手なキーホルダーの大切な意味を僕は周りの人に伝えていきたい。



## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### 知るといふこと

平塚市立春日野中学校

三年 前田 乃裕

白杖を頭上に掲げる、「白杖SOSシグナル」。このサインの意味を知っている人はどれくらいいるでしょうか。

私の母の職場では視覚障がい者の方が働いています。そのため、小学生の時に母の職場へ行った際、初めて視覚障がい者の方と関わりました。当時の私は障がい者の方に対してどこか自分とは違うと思ったり、怖いと思っていました。でも母の職場へ行ってみると私のイメージは大きく変わりました。そこには楽しく話をする視覚障がい者の方たちがいました。声を聞き分け、時々相手の方向を向きながら話す姿に私は驚きました。また、私が挨拶をするときとても明るく優しく話してくれました。それから私は彼らがどんな仕事をしているか気にな

り、

「何を作っているんですか?」

と聞くと、編んでいた布草履を見せてくれました。それは目の見えない人が編んだとは思えないほど綺麗な編み目でとても素敵なものでした。私が草履に感動していると、パチンパチンという音が聞こえてきました。何の音か母に聞くと、母は一人の男性の方を向き、

「あの人は指を鳴らしてその反響を聞くことで障害物がないか聞き分けているんだよ。」

と言いました。私は驚くと共に視覚障がい者の方たちの事を何も知らなかった自分を情けなく思いました。それから何度か母の職場に行くにつれて、一つにまとめられている視覚障がい者の中にも見える度合いや見えなくなってしまう原因などに違いがあること、ご飯や物の位置は時計の文字盤に例えることなどを知り、初めて知ることが多くとても勉強になりました。また、視覚障がい者の方が普段の生活で困る事のほんの一部も知りました。一つは自動販売機で飲み物を買う時で、いつもの位置にあると思って買った商品入れ換えで違う飲み物が出てくる、そんなことがあるそうです。もう一つは雨の日だそうです。雨の日は白杖と傘を持つことで体が不安定になったり雨音に遮られ、周りの音を聞き分けることができないと聞いて私ははっとしました。それは目からの情報で判断できる私たちには気づけない事でした。私は普段何気なく使っている物でも、障がい者の方にとっては使うのすら難しいこともあると学びました。中でも一番知ることができて良かったのは「白杖SOSシグナル」です。視覚障がい者が白杖を頭上に掲げた時、それは助けてくださいという意味があるそう

です。このサインを知ると共にこの意味は私たち健常者が知らないと思われ、視覚障がい者の方たちを助けることができないと分かりました。

私は関わって初めて視覚障がい者について理解を深めることができました。今は多様性が重視されたり、障がい者に対する法律や設備が整ってきています。でも、まだまだ障がい者と健常者という区別が差別や偏見に繋がりが、苦しんでいる人がいます。私たちがそれをなくしていくために出来る事、それは「知る」ということだと思えます。何をするのが大変なのか、困っていたらどう助けるべきなのか知るだけで障がい者に対する意識が変わるはずで、また、知識を持っていていざという時にその知識は彼らを助ける力になります。もちろん法律や設備が整うことは大切です。例えば、商品名が点字でも記される自動販売機があっても良いと思います。でも、人々の意識が変わらない限り差別や偏見は消えないと思います。人々が障がい者に対する知識を深め、意識を変えることで障がい者と健常者という域を越えて互いを想えるようになればいいなと思えます。

## 最優秀賞

t v k 賞

### 聞けた、最期の声

神奈川県立平塚中等教育学校

三年 石井千波

「最期はこの家で死にてえなあ。」

それが口癖の様だった祖母は甘い食べ物が大好きなお喋り好きな人だった。そんな祖母は昨年、胃癌で亡くなった。闘病といわれると過去の私は病院での生活を想像しただろう。しかし祖母は命が尽きるまで自宅で過ごした。在宅介護には様々な魅力が挙げられるだろう。だが、それには大きな負担が伴う。実際に経験してみても知った在宅介護を考えたい。

昨年、祖母があまり食事を口にしないようになった。家族で暫く様子を見守った。祖母の体調が更に悪くなり始めた夏。私は帰宅後母に「おばあちゃん、癌だった。」と告げられた日のことを今も鮮明に覚えている。これが祖母の闘病生活の始まりだった。

癌と診断されてすぐ、抗がん剤治療が行われた。祖母は高齢だった為、通常の人より少ない薬剤が投与された。それから数日経つと検査の結果も良く医師から「腫瘍が小さくなっていくかもしれない。」と言われた。また元気な姿を見ることができるとも思えないと思っても嬉しかった。家族皆で喜んだ。

しかし私たちは癌を甘く見ていた。秋になると祖母の容態が変化しだす。あの喜びが幻のようだった。

十月下旬になると、祖母は食べたものを吐き戻すようになった。MRI検査を行うと、胃の出口が閉塞していることが分かった。食事がほとんどとれなくなってしまった。そこでステントといわれる網目の筒を入れて、胃の穴を広げることになった。手術の日、私は学校を休んで祖母に付き添った。母より背の高い私は祖母をおぶってベッドから車へと運んだ。手術終了後、医師から告げられた。

「あと一ヶ月生きられるかどうか分かりません。」

残りをホスピスで過ごすか、家で過ごすか。私たちは祖母のあの口癖を想い、家で死にたいという意志を汲み取ることに決めた。

それからの祖母との日々は体感で一瞬だった。老人ホームで働いていた母は介護休暇をとった。母は毎秒祖母に付きつきりだった。生活が祖母中心へと変わった。

十二月に入ると生活が一変した。連日、訪問看護師が来て水分点滴をした。仕事をしていた母が毎日家について、たくさんの知らない人が部屋を出入りする。異様な光景だった。母は

祖母の痩せ細った姿を見て泣くようになった。様々なサービスを利用しているとと言っても一人で介護をすることは心身共に限界があった。「死にたい。」と祖母が言い、「死んでくれ。」と母が言う。これの繰り返し。この状況と迫る祖母の死に、私は動揺していた。

祖母が亡くなる前日、祖母は身体が中心が痛いと言った。私たちは家族は祖母の身体を撫で続けた。とても辛そうだった。濁った声で痛いと言った。私は何も出来ず眠りについた。明日も祖母はいると思っていた。その日も母は祖母の様子を見に行っていた。午前三時。祖母の辛そうな声が消えた。落ち着いたんだ、そう思った。違った。祖母は自らの望み通り自分の家のベッドで亡くなった。

在宅介護でなければ母は仕事を続けられた。祖母の痩せ細る姿、痛みに耐える姿、どれも見なくて済んだ。最期に何も出来なかったことを、今になって後悔することもなかったと思う。でも在宅介護だからこそ、祖母の願いを叶えることが出来た。声が聞けた。家族皆で身体を撫でることができた。大好きな祖母とギリギリまで一緒に過ごす。この喜びは病院での闘病では経験できなかったものだ。どちらが良いのか私には判断することができない。それぞれに魅力と負担があるからこそ、多面的に捉えることが大切だろう。在宅介護という選択も決して間違いではない。

今でも私の耳に残る「頑張っておいで。」という祖母の声がそれを示している。

# 最優秀賞

神奈川新聞社長賞

## 共生社会に生きる

小田原市立城山中学校

三年 岡 本 彩 佳

私の母は生まれつき聴覚に障がいを持っている。普段は補聴器を使って音を聞き、会話している。それでも完全に健聴者と同じレベルの聴力を持てるわけではない。

母と過ごして一番感じることに、それは、共生社会への理解が薄いことだ。例えば買い物をする時、レジ打ちしながら「レジ袋は要りますか？」と尋ねられても、レジの機械音や袋の音など、意外と騒音が多いスーパーでは聞き取ることが難しい。マスクが欠かせない今、会話の手助けとなっていた口話は使えない。だから、よりはつきり話す等の話し方への配慮は必要だ。

他にも共生社会について感じることはいくつもある。例えば病院での呼び出しや、電車の

アナウンスなど…。共通してみられるのは、文字で伝えることが足りていないことかなと感じた。

しかし、そんな私の見方を変える出来事があった。昨年夏に開催された東京オリンピックの閉会式に、開会式ではなかった手話通訳の方の姿があった。ろう者の方が要望を出したそう。

ここで私には疑問に思うことがあった。なぜ字幕だけでなく手話通訳が必要なのだろう。調べてみると様々なことが分かった。まずろう者の多くが第一言語を日本語ではなく手話としていたため、字幕を正確に理解することが難しい方がいることだ。例えると英語の音声を手話の字幕で理解するようなものだ。また中継の場合、字幕入力や演出と同時に進行するため字幕の表示はどうしても遅れてしまう。ここでも字幕だけだと臨場感を味わうことができないという問題が発生してしまうのだ。これも例えると、英語の演出を遅れて表示される日本語の字幕で楽しんで下さい、というようなものだ。このような理由から、字幕も手話通訳もどちらも必要なのだ。

閉会式で手話通訳をされていた方のうちの一人は、私が母を通じて知り合った方の息子さんだった。豊かな表情とリアクションで、健聴者が見ていても楽しくなる手話通訳だった。閉会式後のSNS上では、「手話の人」がトレンド入りするくらいの注目が手話に集まっていた。「手話が好きになった」「楽しかった」「手話通訳の方、すばらしい」温かい声と称賛の声で溢れていた。中には、手話通訳の有無をチャンネルで変更できるように、「手話通訳は分から

ないけど見ていて楽しいから」という理由で手話通訳ありで閉会式を楽しんだ健聴者も多かったようだった。手話や聴覚障がいに対する理解を深め、人々の心を惹きつけた三人の手話通訳の方に私は感動を覚え、忘れられない夏の思い出になった。

母の仕事は聴覚障がい者の方の悩みの相談を受けたり、聴覚障がいについての講座で講師として活動したりすることだ。聴覚障がいとどう向き合っていくのか。毎日たくさんの方のために活動する母の姿に私は憧れている。私は、小さい頃からたくさん聴覚障がい者の方や手話通訳の方、要約筆記の方と触れ合う機会があった。言葉で、音に出して会話することは難しくてジェスチャーや筆談で繋がることはできる。そんなことを学んだ。今考えてみると、貴重な経験をさせてもらっているなと思った。だからこそ、私には聴覚障がいとみんなを繋ぐことができると思う。伝えることができると思う。だから、この先どこかでみんなが聴覚障がいについての理解を深めることに繋がるような活動をしてみたいと思う。この世界が今よりもっと誰もが過こしやしやすい共生社会になりますように。

## 最優秀賞

ふれあい賞

### 福祉の目線

大井町立湘光中学校

三年 橋本 有楽

八十五歳になる私の祖父は、昨年の秋、転倒して足を骨折し、今では車いすが欠かせない生活となりました。生活環境は大きく変わり、要介護認定を受け、多くの人の支援を受け、通院等の送迎、介護用品のレンタル、食事や入浴の関係での小規模多機能型居宅介護施設の利用などが始まりました。

私が驚いたのは、これに伴って私の両親の負担が大きく増えたことです。私の両親は、「身の回りの世話、病院や施設等との調整などは自分のペースで進められるけど、病院や施設から急に判断を求める電話があるときは仕事への影響も考えながらスケジュールを見直すのが大変だ」と言っています。また「送迎と支援のサービスに、もう少し連携があると助かるの

だけど、何とかならないのかな」とも言っています。

そんな多くの人々によって支えられている祖父の日常ですが、祖父が一番残念そうにしていたのは、畑仕事ができなくなつたことです。そんな姿を見かねて、私の父が、祖父の家の庭先に、小さな畑をつくりました。畝二枚ほどの広さですが、この夏には、所狭しとキュウリ、ミニトマト、エダマメなどが育ち、祖父は色彩豊かな小さな畑を見ながら、満足そうな表情を浮かべていました。通院、通所といった、日々の決まった生活の中で、野菜の世話をしているときは、目を輝かせながら楽しそうにしています。

ある夏の日、祖父が庭先での草刈り中に、鎌で手の指を切るといふ出来事がありました。祖父からすれば、農作業中でのよくある出来事ですが、熱中症も心配される日差しの中、庭先とはいえ、一人での草刈り中の怪我であつたため家族や病院、施設は大慌てです。

一人のときに、周囲が思ってもいないような行動が続くと、安心・安全の面から、それぞれの立場・責任で、その行動を制止しようとなつてきます。本人の安全を思つての行動ではあるのですが、安心・安全を優先しようとするほど、祖父の行動の自由は制約されていき、結果、「あれもダメ、これもダメばかりじゃないか」というやりとりが増えるなど、お互いに感情が表に出てきて関係もぎくしゃくしてきました。「本人がやりたいこと」と「周囲が安全を確保したいこと」が、寄り添おうとすればするほど、ぶつかり合つてしまうのです。

また、祖父は杖を使用するようにもなりましたが、現在は、そのほかにも、周囲からたくさんの「転ばぬ先の杖」を持たせられているような状況です。「何かあつたら大変」というこ

とから、それを避けるため、周囲からたくさんの「制約」という名の杖を持たせられてしまふのです。安心・安全のためとはいえ、「相手の目線に寄り添つた対応」となっているのだからかと思うときもあります。

辞書で「福祉」という言葉を調べてみると、「人を幸せにすること」や「よりよく生きること」と説明がされています。

福祉の制度やサービスは、本来、人々の生活をより良くするためにあるものです。その制度を考えたりする人が、どれだけ使う人の目線に寄り添えるかによって、利便性も大きく変わってくると思います。

小さな子ども相手に、親が腰を下ろして子どもとの目線に合わせ、話しかける姿を目にすることがあります。

「福祉の目線」も、制度の数だけ、目線が存在し、さらに「当事者の目線」と「支援者の目線」といったように、立場による目線もあるのです。

「福祉の目線」は、相手の目線に合わせて支援する側で調節することができるとは、

一人ひとりの見つめる方向が変わってくれば、「社会の目線」も、きつとより良い方向に向かつていくのではないのでしょうか。

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会会長賞

### 今、自分にできること

厚木市立依知中学校

一年 竹原 梢

私は福祉委員会に入っているのにも関わらず、「福祉」という言葉の意味をあまり考えたこともなく、理解していると思いきんでいました。けれど、いざ説明しようとする、上手に説明できませんでした。なので、辞書で調べてみると、「満足すべき生活環境」とかいてありました。もう少し詳しく調べてみると、「福祉サービス」という言葉がかいてありました。母に「福祉サービス」とは何かと聞いてみると、祖母が利用していると教えてくれました。

私の祖父と祖母は三年前、山口県下関市から近所に引っ越してきました。そして、引っ越してから一年もたたないうちに、祖父が他界しました。その頃から、もともとあった首の痛みが悪化していき、祖母は寝たきりになってしまいました。母が何軒かの病院へ連れて行っ

たけれども、原因はわかりませんでした。それから、だんだんご飯を食べなくなり、母は祖母の介護に付きつきりで、疲れ果てていました。私にも手伝うことはないかと考え、毎朝おかゆを作って届けていました。

最近はやべれなくなり、書類の手続きや病院への送迎と予約などは全て母がやるようになりました。祖母は昔より痩せほそり、表情が減り、返事やまともな会話さえできなくなりました。ついに母の手に負えなくなり、介護保険で、デイサービスへ週に四日で通い始めました。これは、「福祉サービス」の一つだと母が教えてくれました。通い始めてからあまり時間は経っていないので、変化はあまり見られませんが、起きている時間は増えました。最近、遊びに行っても、たいていは寝ているけれど、お盆休みに遊びに行ったら、おばと一緒にトランプで遊んでいるところをニコニコと笑顔で座って見ていました。そのような久しぶりに笑顔になった祖母を見て、私はとてもうれしくなりました。そして、これからはずっと笑顔でいてほしいと心から思いました。

私は、母が祖母に何をしてあげているのかを聞くと、仕事が休みの日も何軒かの病院への送迎や予約、書類の手続き、弁当の手配、一カ月に一回のケアマネージャーとの話し合いや、二カ月に一回の管理栄養士との話し合いなど、他にもたくさんのお話を聞いて、忙しく、大変なのだなと思いました。それでも、「福祉サービス」でデイサービスに通うようになって安心して、ケアマネージャーとつながって相談できるようになって気持ち少し楽になったと言っていました。

そのような母の姿を見て、自分にもっとできることはないかとよく考えました。祖母は私と妹が遊びに行くときと喜ぶので、今よりも多く行き、顔を見ながら話しかけたいです。また、手作りの料理や工作を作って持つていくのも喜ぶので、色々としてあげたいです。「楽しい」「うれしい」と思えるようなことをしてあげたいです。他にも、祖母だけではなく、母にも目を向けたほうがよいと思いました。介護で疲れている母の負担を少しでも減らすために、洗濯物や家のそうじなどの、自分ができる家事をなるべく多くやりたいと思います。みんなが笑って幸せに暮らせるようにすることが「満足すべき生活環境」を整えることだと私は考えます。



## 最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会会長賞

### 高齢者の地域支援について

厚木市立依知中学校

二年 木下 永琥

僕の祖母は七十八歳です。祖父が亡くなってから一人暮らしをしています。自転車で買い物に行ったり、庭で野菜を育てたりしています。僕達が遊びに行くときご飯を作ってくれたりいっしょに散歩に行ったりしてくれます。また僕の野球の大会を暑い中応援しに来てくれます。僕の祖母は元気いっぱいです。

夏休みに入ってからすぐのことです。いつものように自転車で出かけていたら、出会い頭にバイク事故に遭いました。幸い足の骨折ですみましたが、一カ月入院することになりました。事故のことを聞いた時は、とてもびっくりしました。いつも元気な祖母が入院するなんて想像もありませんでした。でも一カ月の入院中に歩けるようにリハビリをしてくれるとのことな



のでひとまず安心しました。

入院後、祖母の家は一カ月留守になります。留守にしておいて大丈夫なのか心配でした。空き巣に入られるのではないか、一生懸命育ててきた野菜やお花が枯れるのではないか、僕が代わりにやりたくても遠くへ行けません。そんな中、家族で祖母の家の様子を見に行くのと野菜もお花もとても元気でした。近所の人が僕達がいるのに気づき、訪ねてきて「入院したと聞いたから庭の水やりをやっておいたよ」「退院するまで水やりをするから気にしないでいいわよ」と言ってくれました。また、別の日には民生委員の人が様子を見に訪ねに来てくれました。僕は民生委員というものを知らなかったので調べてみました。民生委員とは地域生活を援助、相談にのってくれる役割を担っていると書いてありました。支援が必要な家庭、特に単身で生活する高齢者の家庭に定期的に訪問し、様子を見たり相談にのってくれたりするとのこと。僕は祖母が入院するまで、民生委員の存在を知らなかったし、祖母がそのような支援を受けていたことも知りませんでした。祖母が一人で元気で暮らしていると思っていました。近所の方や民生委員の支援があつてこそ一人でも安心して、暮らせていたんだと気づきました。

次に退院後の生活についてです。祖母に介護認定の話が持ち上がりました。介護認定については学校の授業やニュースなどで耳にしましたが、僕の身近なものではありませんでした。自分の祖母が利用することとなり、あらためて、制度について調べてみました。四十歳以上の人は、健康保険料の他に介護保険料を支払うこと、その集めたお金で介護認定を受けた人が、

必要なサービスが受けられること、介護認定には要支援、要介護の七つのレベルがあるということが分かりました。祖母は今のところ自分のことは自分でできるので要支援の一か二が貰えるのではないかと話でした。

今回の祖母の入院にあたり、様々なことを知ることができました。祖母が元気で一人暮らしができるのは近所の方の支援だったり、民生委員が見守ってくれたりしていたこと、介護認定を受け、必要な支援を安価で受けられること、何気なく生活している中に様々な支援があることに気付くことができました。これから益々高齢化が進み、僕が成人するころには、日本は高齢者で溢れると聞きます。これからも高齢者が自立して生活できる支援体制が充実していけばいいなと思いました。僕も地域住民のひとりとして、支えていける立場になれるよう、努力していきたいと思えます。

# 神奈川県福祉作文コンクール入選者名簿

## 小学生の部

### 優秀賞

|                   |                |    |    |
|-------------------|----------------|----|----|
| 助け合い              | 伊勢原市立比々多小学校    | 六年 | 山本 |
| 障害者と私             | 寒川町立小谷小学校      | 五年 | 大木 |
| 黄色い案内者            | 厚木市立戸室小学校      | 六年 | 難波 |
| 温かな手              | 聖セシリア小学校（大和市）  | 六年 | 遠藤 |
| 思いやりの大切さ          | 秦野市立鶴巻小学校      | 五年 | 遠藤 |
| 私の苦手なこと           | 横浜市立森の台小学校（緑区） | 六年 | 三浦 |
| ぼくの友だち            | 相模原市立双葉小学校（南区） | 二年 | 佐藤 |
| 小さなことだけど：         | 座間市立相武台東小学校    | 四年 | 井川 |
| デイサービスに通うぼくから見た福祉 | 開成町立開成小学校      | 五年 | 安池 |
| 自分にできること          | 横浜市立南本宿小学校（旭区） | 六年 | 菊地 |
|                   |                |    | 桃華 |

### 準優秀賞

|                 |                   |    |    |
|-----------------|-------------------|----|----|
| 身近なバリアフリー       | 湯河原町立東台福浦小学校      | 五年 | 高橋 |
| 体験から紡ぐこれからの福祉   | 横浜市立希望ヶ丘小学校（旭区）   | 六年 | 増田 |
| 妹と妹をたすけてくれる人たち  | 横浜市立森の台小学校（緑区）    | 三年 | 稲葉 |
| 私の弟             | 川崎市立新城小学校（中原区）    | 四年 | 吉田 |
| 快適に安心して暮らせる社会へ  | 横浜市立東台小学校（鶴見区）    | 六年 | 山口 |
| 福祉で、安心してよりよい生活を | 開成町立開成南小学校        | 六年 | 川島 |
| みんな友達になれる社会へ    | 厚木市立南毛利小学校        | 五年 | 牛込 |
| みんなが一緒に暮らしやすい社会 | 海老名市立今泉小学校        | 五年 | 川崎 |
| 人と人とのつながり       | 横浜市立洋光台第三小学校（磯子区） | 三年 | 山崎 |
| おばあちゃんから学んだ「福祉」 | 寒川町立一之宮小学校        | 四年 | 古屋 |
|                 |                   |    | 袖季 |

## 中学生の部

### 優秀賞

当たり前がなくなつて気づいた事  
 障がい者と共に暮らす  
 あなたはわたし  
 寄付のあり方  
 みんなが幸せになるために  
 僕の妹  
 心の福祉  
 祖父のおかげで  
 障害者と福祉  
 広げよう、素直な心で

|                 |    |     |
|-----------------|----|-----|
| 相模原市立麻溝台中学校(南区) | 一年 | 秦   |
| 横須賀市立大楠中学校      | 三年 | 高橋  |
| 小田原市立城山中学校      | 三年 | 亀川  |
| 秦野市立東中学校        | 一年 | 川添  |
| 伊勢原市立成瀬中学校      | 三年 | 須藤  |
| 伊勢原市立山王中学校      | 三年 | 岩間  |
| 座間市立相模中学校       | 一年 | 島田  |
| 茅ヶ崎市立萩園中学校      | 二年 | 川口  |
| 横浜市立小山台中学校(栄区)  | 一年 | 小野  |
| 開成町立文命中学校       | 一年 | 菊地  |
|                 |    | 紗陽香 |

### 準優秀賞

自分の経験から思ったこと  
 知らない誰かのために今出来ること  
 福祉の活動をもっと身近に  
 私のできる福祉  
 できることに目を向けて  
 幸せな社会  
 自分にできること  
 できる事から始めよう  
 私が初めて触れた介護  
 思いやりの心

|                |    |    |
|----------------|----|----|
| 伊勢原市立山王中学校     | 三年 | 原  |
| 開成町立文命中学校      | 三年 | 松浦 |
| 厚木市立林中学校       | 一年 | 山口 |
| 伊勢原市立伊勢原中学校    | 三年 | 古郡 |
| 相模原市立鳥屋中学校(緑区) | 三年 | 小林 |
| 南足柄市立南足柄中学校    | 三年 | 柏木 |
| 寒川町立旭が丘中学校     | 三年 | 中島 |
| 厚木市立林中学校       | 一年 | 佐藤 |
| 大井町立湘光中学校      | 一年 | 夏苅 |
| 横浜市立市場中学校(鶴見区) | 三年 | 谷山 |
|                |    | 紗夏 |

神奈川県福祉作文コンクール入選作品集 令和4年度版

---

令和4年12月発行

発行者 社会福祉  
法人 神奈川県共同募金会  
〒221-0825 横浜市神奈川区反町3-17-2  
電話 045(312)6339

社会福祉  
法人 神奈川県社会福祉協議会  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
電話 045(312)4813

印刷 神奈川新聞社

---